

ニュース JAFIC EYE №245

1月のマイワシ・さば類・マアジの漁況について

1. 太平洋側のマイワシについて

1月の北部まき網による水揚物はマイワシ主体で、さば類やぶり類(イナダ)なども水揚げされた。マイワシは、月を通じて塩屋崎～犬吠埼沖主体の操業であった。マイワシは、さば類に比べて1網当たりの平均漁獲量が169トンと多く、なかには1網で400トン以上獲る船もあった。

○石巻港：1月の水揚量は12月を上回り、前年を上回った(表1)。石巻港では12月中旬ごろから定置網による水揚量が増え、1月も引き続き定置網による水揚量が多かった。

表 1. 石巻港におけるマイワシの水揚量(トン)と平均価格(円/kg)

	2020年/2021年		2021年/2022年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
12月	224.2	38.0	582.5	55.0	2.6	1.4
1月	2,092.9	41.0	3,644.2	59.0	1.7	1.4

○銚子港：1月の水揚量は12月を上回り、前年を上回った(表2)。前年同期は、さば類主体の水揚げが続いていたが、今期は、さば類の魚群の分布水深が深く、漁獲がまとまらない日にはマイワシを狙う船が多かった。マイワシの群れはさば類の群れより大きいと、水揚量がのびた。銚子港水揚げのマイワシの体長は15～16cm 主体、体重40～50g 主体であった(図1、2)。明け2歳魚と考えられる。

表 2. 銚子港におけるマイワシの水揚量(トン)と平均価格(円/kg)

	2020年/2021年		2021年/2022年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
12月	158.4	58.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1月	2,968.1	78.0	15,766.6	54.0	5.3	0.7

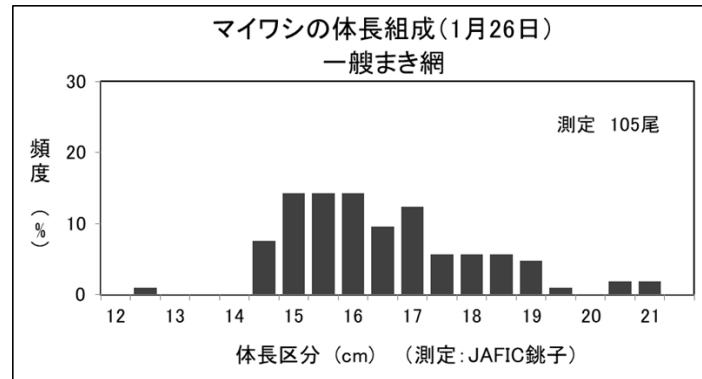


図 1. 1月26日銚子港水揚げのマイワシ体長組成

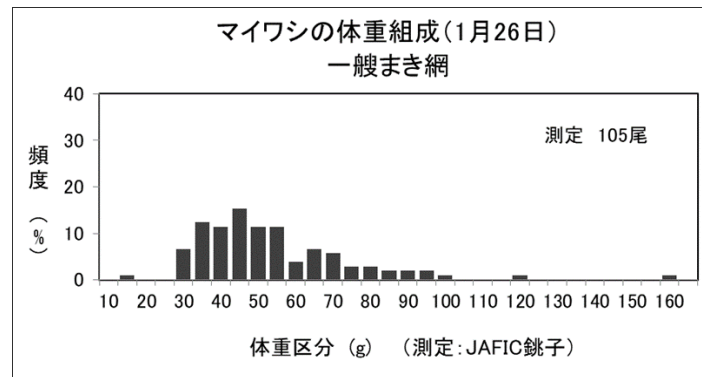


図 2. 1月26日銚子港水揚げのマイワシ体重組成

2. 太平洋側のさば類について

○銚子港：12月の水揚量は1月を下回り、前年を下回った(表3)。1月上旬の漁場は犬吠埼沖主体であったが、中旬以降は新たに塩屋崎沖～鹿島沖にも形成され、後続の南下群が来遊したものと考えられた。1艘まき網の1網当たり漁獲量は21トン前後であり、12月を下回った。1網当たり40～100トンを漁獲する船もあった。1日あたり水揚量は2,000～3,000トンで、日によって石巻港などにも水揚げされた。銚子港に水揚げされたマサバの体長(尾叉長)は30cm 主体、体重は240g 主体であった(図3、4)。

表 3. 銚子港におけるさば類の水揚量(トン)と平均価格(円/kg)

	2020年/2021年		2021年/2022年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
12月	27,716.0	149.0	26,023.8	145.0	0.9	1.0
1月	20,510.1	130.0	11,832.0	196.0	0.6	1.5

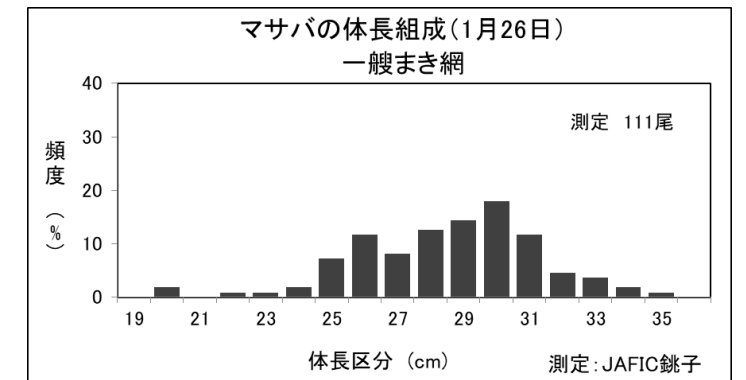


図 3. 1月26日銚子港水揚げのマサバ体長組成

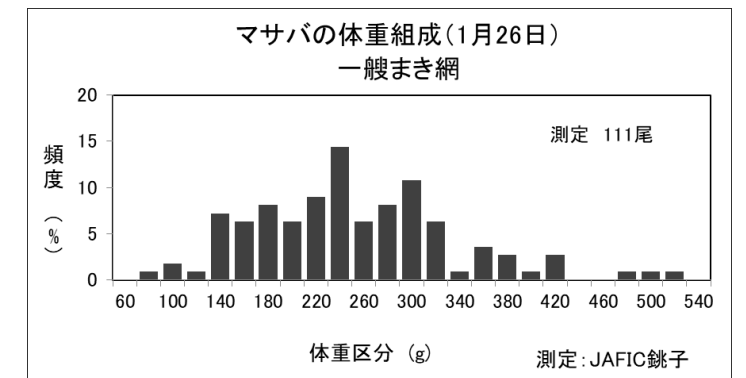


図 4. 1月26日銚子港水揚げのマサバ体重組成

3. 日本海および東シナ海側のマサバについて

○松浦港：1月は対馬海域主体に操業が行われ、水揚量は12月及び前年を上回った(表4)。1月以降はマサバ主体の水揚げとなった。対馬海域の1隻当たりマサバ水揚量は、2020年と2021年を上回り、2月以降も対馬海域で水揚げが続くと考えられる。遠洋旋網漁船による長崎港水揚物は体長28cm 主体で、30cm 以上のサイズも混じった。体重は260g 主体であった。2歳魚主体になる日が多く、日によって1歳魚が主体になる日もあった(図5、6)。

表 4. 松浦港におけるマサバの水揚量(トン)と平均価格(円/kg)

	2020年/2021年		2021年/2022年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
12月	574.5	237.0	943.1	195.0	1.6	0.8
1月	1,726.2	152.0	2,368.7	135.0	1.4	0.9

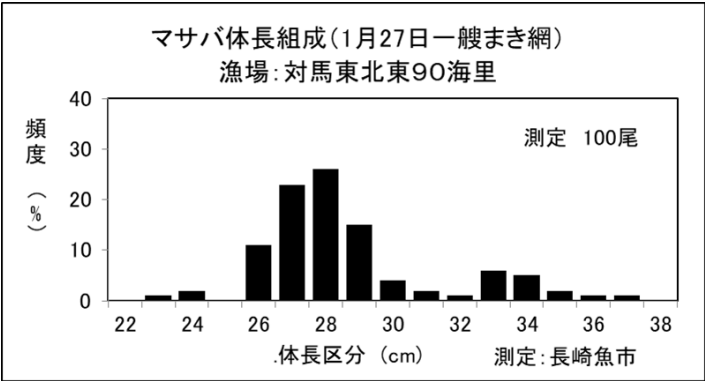


図 5. 1 月 27 日長崎港水揚のマサバ体長組成

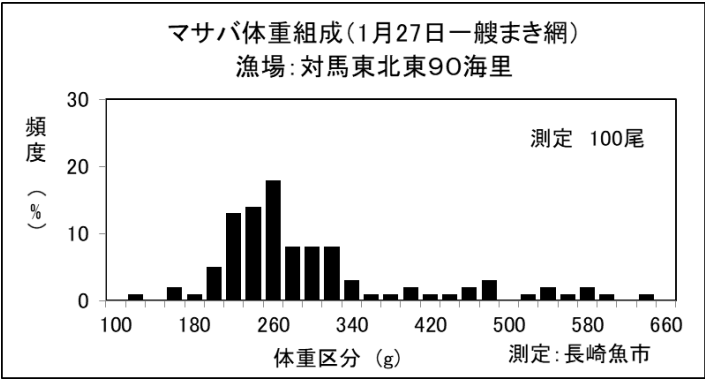


図 6. 1 月 27 日長崎港水揚のマサバ体重組成

4. 日本海および東シナ海側のマアジについて

○境港： 1 月の水揚量は 12 月及び前年を上回った(表 5)。12 月はぶり類(ツバスなど)の水揚量が多かったが、1 月はマアジの水揚量が増えた。境港の水揚物は体長 19cm 主体で、体重 100g 前後主体であった(図 7、8)。

表 5. 境港におけるマアジの水揚量(トン)と平均価格(円/kg)

	2020年/2021年		2021年/2022年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
12月	673.0	110.0	194.5	142.0	0.3	1.3
1月	827.0	149.0	1,402.0	93.0	1.7	0.6

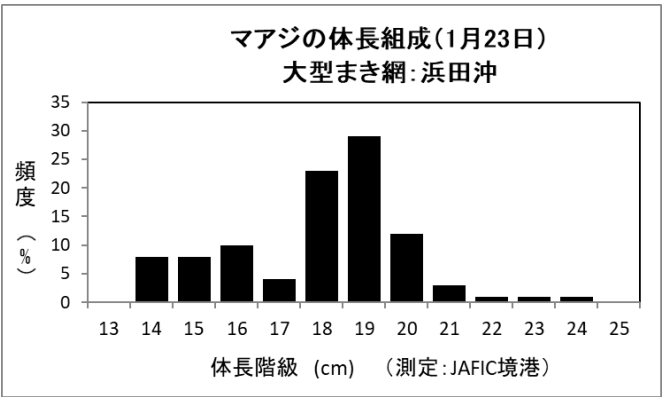


図 7. 1 月 23 日境港水揚のマサバ体長組成

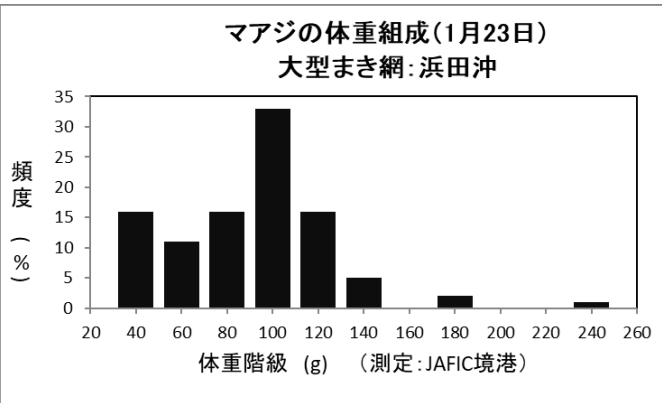


図 8. 1 月 23 日境港水揚のマサバ体重組成

○長崎港： 1 月の水揚量は 12 月及び前年を上回った(表 6)。漁場は主に対馬海域であった。遠洋旋網漁船による長崎港水揚物は体長 24cm、体重 180g モードの 1～2 歳魚主体であった(図 9、10)。境港水揚物より大型サイズが主体であった。鮮魚向けに出荷できるサイズではあるが、量が多いため前年より安かった。

表 6. 長崎港におけるマアジの水揚量(トン)と平均価格(円/kg)

	2020年/2021年		2021年/2022年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
12月	1,620.4	221.0	931.2	219.0	0.6	1.0
1月	799.6	241.0	1,003.9	170.0	1.3	0.7

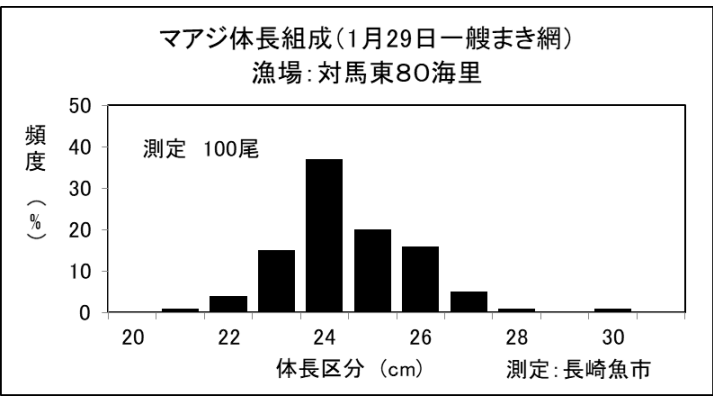


図 9. 1 月 29 日長崎港水揚のマアジ体長組成

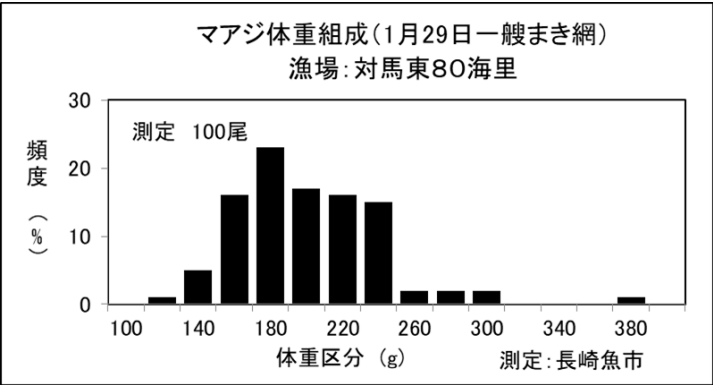


図 10. 1 月 29 日長崎港水揚のマアジ体重組成

5. まとめと 1 月の動向

太平洋側のマイワシの漁場は、1 月を通じて塩屋崎～犬吠埼沖に形成された。水揚物の体長は 15～16cm 主体、体重 40～50g 主体であった。1 月は、さば類の魚群がまとまらない日にマイワシを獲ることが多く、前年同時期と比較するとマイワシの水揚量が多かった。1 網当たり 400トン以上漁獲する船もあった。

太平洋側のさば類の漁場は、1 月上旬は犬吠埼沖に形成されたが、中旬ごろからは塩屋崎～鹿島沖にも形成され、後続の南下群が来遊したものと考えられた。水揚物は 240g 前後主体で、400g 以上の大型サイズは 1～2 割であった。1 網当たり平均漁獲量は 21 トンで、12 月を下回った。北部まき網全

体では、網数を増やして 1 日当たり 2,000～3,000 トンを水揚げした。12 月と比較して水揚物が小型化しており、大型魚はすでに産卵場への南下をはじめていると考えられる。産卵場である伊豆諸島周辺の棒受網では、マサバの水揚げが増えた。

東シナ海のマサバについては、対馬海域を中心に 2 歳魚主体の漁獲があった。2 月以降も対馬海域でまとまった水揚げが続いており、3 月まで遠洋旋網ではマサバ主体の水揚げが続くと考えられる。

日本海側の 1 月のマアジの水揚量は 12 月を上回った。12 月はブリ類主体の水揚げが続いていたが、1 月は大型まき網によるマアジの水揚量が増加した。東シナ海では対馬海域主体の操業であった。マサバを下回る水揚量ではあったが、1 隻当たり水揚量は過去 5 年平均を上回っており、好調な水揚げが続いていた。水揚物は鮮魚として出荷される体長 24cm (1 歳魚) 主体に 2 月も操業が続くと考えられる。

(水産情報部 藤井 棕子)